

## 再成長に向けて

社長 兼 CEO  
沖津 雅浩



社員の皆さん、新年明けましておめでとうございます。新たな年を迎えるにあたり、まずは皆さんの昨年の努力に改めて心から感謝します。本当にありがとうございます。

昨年2024年は、日経平均株価が約34年ぶりに史上最高値を更新し、4万円の大台に達するなど、日本経済に新たな成長の兆しが見えた年となりました。また、国際社会では、アメリカ大統領選挙をはじめ、各国で重要な選挙が行われた「選挙イヤー」となり、今後新たな政治的転換期を迎える可能性が注目されています。

さらに、技術開発の面では、生成AIの普及により、企業や個人の働き方、クリエイティブな活動が大きく変化し始めており、今後こうした技術を如何に使いこなすかが企業の競争力を大きく左右する時代に入っていきます。

他方、当社にとっての2024年を振り返ると、5月に中期経営方針を発表し、6月末に新体制を始動。その後着実に業績を積上げ、上期には2年ぶりとなる営業黒字を達成することができました。また、今年度の最重要経営課題である「アセットライト化」についても各プロジェクトが着実に進展しています。

具体的には、昨年6月以降、ソフトバンク社と、グリーンフロント堺の土地及び建物の一部譲渡について本格協議を行ってきましたが、12月20日の取締役会で当件に関する当社の方針を決議しました。今後、該社と最終協議を詰め、早期の契約締結を目指します。尚、KDDI社との協議についても順調に進展しており、今年度中の決着を目指しています。

また、12月26日には、積水化学工業社と、堺本社工場棟の譲渡について合意しました。これに伴う本社の移転先については現在検討中であり、決定し次第、皆さんに速やかにお伝えします。

翌27日には、鴻海の子会社であるFullertain社と、カメラモジュール事業の譲渡について契約を締結しました。当初は事業全体を譲渡すべく交渉を進めてきましたが、結果として、SSTCの生産子会社「SSTEC社」の株式の持分、及び、SSTCが保有する固定資産等を譲渡する形となっています。関連事業に携わる皆さんの雇用については、今後予定されている先方からの個別転籍オファーの状況を見つつ、グループ内での再配置を検討していきます。会社としては、できる限り多くの雇用を確保できるよう、引き続き全力を尽くす考えです。

このように、2024年は、再成長に向けた確かな基盤の構築に、全社一丸となって取り組んだ一年であり、それぞれの取り組みが着実に成果に繋がっています。また、こうした背景もあって、昨年末に速報として報告を受けた第二回エンゲージメントサーベイの結果も前回より若干改善していました。これについては今後、私自ら詳細を確認し、さらなる改善に努めていく考えです。

そして、本年2025年は、いよいよブランド企業“SHARP”としての新たなスタートを切る一年となります。この仕事始めにあたり、まず皆さんには、私たちの原点である創業の精神、「経営理念・経営信条」、「まねされる商品をつくれ」に今一度立ち返っていただきたいと思っています。そして、一人ひとりが「誠意と創意」を遺憾なく発揮し、全員の力でシャープらしい新たな価値を次々と創り上げていきましょう。

最後になりましたが、私はこの正月休みに、例年通り京都の伏見稲荷大社を訪れ、願いが達成されるよう祈念して創られた「達成のかぎ」を授けてきました。私はこの「達成のかぎ」を授かるようになって以降、多くの年で業績目標を達成することができており、今年度も公表値を必ずやり遂げることができると確信しています。

2024年度も残すところ3ヵ月です。最後まで全社一丸となって業績向上に取り組ましましょう。そして、5月の本決算で公表値達成を発表し、新たな成長戦略を打ち出すことで、反転攻勢、シャープ再成長の狼煙を上げ、次のステージへと歩みを進めていきましょう。

それでは、今年も一年間、どうぞ宜しくお願いします。引き続き共に頑張りましょう！



伏見稲荷大社の様子



「達成のかぎ」